南太平洋海域調査研究報告　No.59（2018年3月）
OCCASIONAL PAPERS　No.59（March 2018）

文学に見る人と自然の関わり（２）
新しい人文風景論のための予備的考察

鵜戸　聡

The Human and Nature Relationship in Literature (II)
An Reflection on the New Humanities of Landscapes

UDO Satoshi

鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系法文学部人文学科
Department of Humanities, Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University

要旨

奄美の豊かな自然と、複雑な海岸線を有する島嶼環境は、人間の想像力にどのような影響を与えるのか。島尾敏雄のテクストを実際の自然環境と付き合わせて読みながら、環境世界とのインターフェースとしての言葉のありようを探るとともに、総合的な環境世界の中で主体的に自己を再考・再構築するためのレッスンとして、文学作品を教育に利用する方法を探った。また、比較対象として、九州の自然環境を描いた現代日本の小説や、アマゾン河畔を舞台にしたブラジル小説の調査を行なった。

研究内容

本研究は、奄美群島の自然環境が人間の想像力に及ぼす影響について、主に島尾敏雄の文学作品の読解を通してアプローチして来た。これまでに現地調査で得た環境データと文学テクストを付き合わせて行った分析結果についてはすでに国内外の学会・シンポジウムでその一部を発表して来たが、その後の研究においては、天球カメラを導入するなど技術的な改善に努めたほか、理論的な整備及び他地域との比較のための調査を行なった。

風景を描く文学テクストがいかにして環境に内包された人間存在を再主体化するのかを、科学的データや哲学・人類学などの知見も援用しつつ、仔細に分析することによって、環境世界とのインターフェースとしての言葉のありよう・役割を明らかにすることが本研究の目的であるが、翻ってみれば、そのような文学作品の精読は、具体的な地域社会に生きる自己を、職業や地縁・血縁関係の

みならず、自然をも含んだ総合的な環境世界の中で主体的に再考・再構築するためのレッスンとなるはずである。奄美群島の風土に根ざした人間観を生活者が自ら探求するためのメソッドを開発することは、短絡的な観光資源の開発に陥りがちな地域振興においても、そこに生きる人間の生活の視点から人的資源を内的に豊かにすることによって大きな意義を持つだろう。

また、短期的な滞在者が観光客とすれば、長期的・半永久的な滞在者として移住者・移民が考えられ、移住の契機、もしくは定住過程における風景への自己統合という観点から移民文学研究に新しい領野を拓くことができる。さらに、風景への愛着（あるいは拒否）という形で、生活風景の中に自己のアイデンティティを意味付けることで、ネイティブから移民まで様々な層の環境世界観を同じ土俵で検討することが可能となるだろう。

上述のような問題意識をもとに、奄美群島における島尾敏雄の経験をより大きな世界に開いていくならば、九州を舞台としたものだけでも、甑島・長島（梨木香歩『うみうそ』）、水俣（石牟礼道子『苦界浄土』）、対馬（平出隆『鳥を探して』）などが比較の対象となる。一方、筆者が特に注目し、現地調査をすでに２度実施しているのが、ブラジル・アマゾンを舞台としたミルトン・ハトゥンの文学である。北米式のエコクリティシズムとは一線を画しつつ、むしろブラジルに滞在していたフェリックス・ガタリの思想（エコゾフィー）やアマゾンをフィールドとして思索を深めている最新の人類学（コーン、カストロ）、フランスの環境人文学（ベルク）に示唆されながら、実際の環境が人間にアフォードする情報（アフォーダンス）と突き合わせてテクストを分析する時、ハトゥンは島尾敏雄の興味深い比較対象となる。

現代社会において文学のプレゼンスが大きく退行し、しかも精緻なテクスト研究が文学を閉ざされたものにしてしまったがために、文学研究もまた危機的な状況にある。本研究の挑戦は、この危機に対して、文学研究を外部へと開き、テクスト研究が他の学問領域に対して持ち得る有用性を高めることで、文学研究の新しい価値と可能性を模索することにある。さらに、大学教育のなかでテクストを読むことの意義を改めて問い、自分たちが実際に暮らしている生活世界に目を開き、地域の環境のなかで自らがどのように形成されてきたのか、これからどのように自らを関わらせていくのかを考え、その土地に生きる人間のための人文学的基礎力としてテクストと風景を読む力を身につけることを企図し、狭義の文学読者を超えて広く市民が享受するための方法論を構築したい。

写真：　アマゾン河畔（マナウス〜マウエス間）